



動物レスキュー通信

2020年11月 第90号 (令和2年11月1日発行)

発行元
一般財団法人 国連世界動物救済支援機構 詩月財団

詩月(しづく) : 詩月財団 理事長
愛玩動物飼養管理士 一級
ペット災害危機管理士 三級
お問い合わせ : sizuku.foundation@gmail.com

ボデイケアは大事 お手入れは健康管理



お手入れのポイント

いわゆるペットと言われているコンパニオンアニマルであるワンちゃん、ネコちゃんは人為的に品種改良が行われており、野生動物とは違う進化を遂げており、骨格や被毛の状態など、野生動物にはない特徴を持つ子もいます。野生動物では自身で毛づくろいをする程度で大丈夫ですが、ご家庭で飼い主さんと一緒に過ごしているワンちゃん、ネコちゃんは自身で行う毛づくろいだけでは十分に清潔を保つことが困難となつていきますので、飼い主さんによる定期的なお手入れが必須なのです。これは何も身体の清潔を保つだけのものではなく、ブラッシングなどをするこ

とによってワンちゃん、ネコちゃんに毎日触れることにより、体調の変化に気づきやすく、いち早く病気を発見できることにもつながります。そればかりではなく、身体に触れることによりお互いの信頼関係がより深いものとなります。ま、ブラッシングは抜け毛や汚れを取り除きま

スムーズさが大切

我が家には一番多き時で6匹の愛猫がいました。それぞれみんな個性的で性格が全く違います。そして好みもバラバラで、ブラッシングが好きなき、嫌いな子、爪切りが苦手な子、そもそも抱っこされること

があまり好きではない子、などはつきりとは分かれていました。その為、日々のお手入れをあげると嫌がることも一苦労の子がいたのも事実です。嫌がることを無理やり長時間してしまうのはワンちゃん、ネコちゃんにとつては相当なストレスになります。もちろん飼い主さんにとつても引っかけたり、暴れられたりしてけがをしてしまったりリスクがありますし、何よりも嫌がるワンちゃん、ネコちゃんを抑え込んだり、嫌がる姿を見ているだけでも心が痛むことかと思えます。そのためにもいかにスムーズに、スピーディーにお手入れができるかと言つ事が大切です。もし、子犬、子猫から飼い始めることになった方は社会化期(ネコは生後3週齢〜9週齢、イヌは生後3週齢〜12週齢)にお手入れになれさせておけばお手入れが嫌いにならない可能性が高いです。もちろんそれ

でも嫌いな子もいますし、なによりある程度大きくなつてから飼い始める方も多いと思います。その場合が時間をかけて根気強く教えてあげてください。時間をかけてといつても1度に長時間と言つ意味ではありません。一日すこしずつ、気長にと言つ事です。いきなりやつてあげたいお手入れをすべて、完璧にこなそうとは考えないでください。まずは嫌がることをしないで「お手入れは嫌なものではない」と言つ事をワンちゃん、ネコちゃんに理解してもらう必要があります。これは人間でも同じことが言えますが、相手の緊張感が伝わってくる、と言つ現象があります。実際に私も「いざ、お手入れを」と思つて愛猫に近づくと「プイツ」とどこかに行かれたり、狭いところに隠れてしまつた、などの経験があります。その為、まずはお互いリラックスした状態で身体を撫でてあげる事から始め、その延長でお手入れをするのが望ましいです。私の場合は寝ている愛猫を撫で、その延長でブラッシングしたり、爪を切つたりしていました。もちろんそれでも嫌がられてしまう時もあります。

①嫌な思いをさせない(必要なことでも我慢するといふ考えをそもそもワンちゃん、ネコちゃんは持ち合わせていないので、無理やり押さえつけたりするとお手入れだけではなく、触られる事自体が嫌いになってしまう可能性があります)②リラックス状態で行う(飼い主さんの緊張感がワンちゃん、ネコちゃんに伝わり、警戒されてしまうことがあります。お互いがリラックスした状態の延長線でのお手入れが望ましいです)③道具を出しておく(お手入れは特別なものではないといふ事をわかつてもらうためにも、お手入れに使用する道具は、いつも見える所に出しておきましょう。しまつておくと道具を出しただけで逃げてしまつ事になりかねません)④一度にやろうとしない(一度に全身をブラッシング、すべての爪を切るなど、まとめてあれもこれもやろうとしないことが大切です。ほんの少しのお手入れだけ、もしくは最初は触れるだけでも構わないのでスピーディーに行い、残りは翌日以降、数日かけて行うようにしまし)⑤できた時には褒美を(少しでもお手入れをすることができたら、ワンちゃん、ネコちゃんの好きなおやつをあげ、褒めてあげる。その事によつてお手入れを楽しくて好きなものに変えてあげられるかもしれません)

様々なことに気を付けながら、日々のスキンシップ、お手入れによる健康管理を行います。しかし無理をしてはいけません。どうしても飼い主さん自身で行うことが困難であれば、プロであるトリマーさんなどの力を借りてみましょう。そうすれば飼い主さんもワンちゃん、ネコちゃんも心身ともに負担が減るはずで

す。動物病院と連携しているトリミングサロンなら情報共有されているので異変にも気づきやすく、なおよいかもありません。(詩月)